

顎関節人工関節全置換術

顎関節人工関節全置換術とは：難治性の開口障害をおこす顎関節強直症、顎関節腫瘍や骨変形の著しい顎関節症などで、動かなくなった顎関節を人工材料で置き替える手術です。

その目的：例えば、従来の顎関節強直症の治療では、癒着している関節突起の部分で切断したり、そこに筋膜を挿入する手術が行われてきましたが、再癒着により、開口障害が再発することがよくみられます。顎関節人工関節全置換術は、顎関節を人工関節に置換することにより、再癒着を起こす可能性が低く非常に有益な方法です。開口障害にて食事摂取が困難な方においては、同手術により開口障害を改善させて、食事を摂れることを目標にしています。

手術方法：(1)皮膚切開は耳前側頭切開と下顎角部のやや外側に切開を行います。この切開では傷あとは殆ど目立ちません(図1)。

(2) 病変のある下顎頭と関節突起部を切除します。その後、人工関節を顎関節の下顎窩に相当する部分にシリコン製のフォッサインプラント、下顎骨の下顎枝から関節突起に相当する部分に合金製のマンディブラーインプラントをネジで装着固定します(図2)。



図1



図2